

じゅしゅう

元旦会 厳修

令和四年最初の行事である元旦会を一月一日午後二時より厳修させて頂いていただきました。まずは新年のご挨拶を参拝の皆さまと交わり、全員で正信偈のおつとめがありました。その後のご法話は寺西覚水先生をお招きし、ゆつくりとお聴聞させて頂いていただきました。先生は昔ながらのご法話スタイルである節談説教を研究し、伝承に力を入れておられる方です。高座の上に座り、抑揚を付けた話し口調でお



初めて鐘をついてくれました

取り次ぎくださいました。ご讚題は「如来所以興出世、唯説弥陀本願海、五濁惡時群生海、応信如来如実言(如来世に興出したまうゆえは、ただ弥陀の本願海を説かんとなり、五濁惡時の群生海、如来如実のみことと信すべし)」と正信偈の一節でした。釈迦如来が世にお出ましくくださった理由は、ただ阿弥陀如来の海のように深くて広い本願の教えを説こうとされたことでした。

阿弥陀さまのご本願は、もろすことなく平等に全てのいのちを救いたいとの願いです。その願いの尊さを、どこまでも深く広い海に例

えられました。

アフリカ北西部にモーリタニアという国があります。国土の九割が砂漠で覆われており、また主要な産業がないため貧困にあえぐ国でした。そんな国に中村正明さんという方が一人訪れ、漁業を伝えることに奮闘されます。けれど最初は上手く人が集まりません。魚介類を食べる習慣がなかったのです。失敗を重ねながら何か良い方法はないかと思案していたときに、ふと海岸に落ちていた古タイヤを見つけます。なんとそこには真ダコが隠れていました。タコ漁であればタコ壺を海に沈めておくだけでよく、捕れたタコは日本などへ輸出することで国が潤うのではないか。なんと今では国の収入の約半分を占めるま

第34号
(通算374号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

2月16日(水)に予定していましたヨガ教室は、お休みさせていただきます。3月は開催予定ですが、この欄もしくはHPをご確認ください。

でになったとのこと。私たちは阿弥陀さまのお心(本願海)への関心は薄く、空のタコ壺を投げ込むような委ねたり任せる心がないのでタコが捕れるはずはありません。心の壺を空っぽにしてご本願の海に浸けるだけで、他力によつてご信心が向こうから勝手に入ってくるという味わうこともできるのではないのでしょうか。



他力といふは

如来の本願力なり

《親鸞聖人》



御文章に聞く(第30回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

紙)を味わっていきたいと思います。先月は第十八願の意味をお伝えしました。この願い(本願)はあらゆる人びとに真実の依りどころと生き方を与える言葉であるといえます。人生の目的を南無阿弥陀仏と念じつつ、浄土に生まれてさとりを極めることに見いだ

信心獲得章(五帖第五通) 信心獲得すというは第十八願をこころうるなり、この願をこころうるといふは南無阿弥陀仏のすがたをこころうるなり、このゆえに南無と帰命する一念の処に発願回向のこころあるべし、これすなわち弥陀如来の凡夫に回向しますすことなり、これを大経には令諸衆生功德成就と説けり、

す、という生き方が示されています。また、第十八願には「正覚を取らじ」と誓われています。正覚とは正しく目覚めた仏のことで、阿弥陀仏(この時は法蔵菩薩)は私たちを必ず救い取る力を具えなければ仏に成らないと誓われました。けれど、私たちのご本尊は阿弥陀如来、もう既に仏さまとなられています。「正覚を取らじ」と誓い、阿弥陀仏が仏に成られていることとは、本願が完成していることをあらわしています。ですから「南無阿弥陀仏のすがたを心得る」とは、ただ名号を称えればよいのではなく、十方の衆生に信心を与え、念仏の者とならしめて、必ず往生させる救済力を備えた仏になった「必ずたすける」という名を聞き受けることが肝要です。それが他力の信心とも言われます。

浄土真宗の本願寺教団の門信徒が戦国時代に起こした一揆のことをいう。一向宗と呼ばれ、織田信長と長い間戦ったことでも有名。一向宗は基本的に阿弥陀如来だけを信仰し、権力者であろうとも一般の人と変わりないという考えを持っているので、権力者側からすると非常に都合の悪い存在でもあった。

一向一揆

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅごう」をお届け致します。新年を迎えてから早一ヶ月、どうしたことかお葬儀が続きました。疲労感を感じつつも、ご縁のあった方々の最後に立ち会わせていただけることは有難く、できる限りご法義をお取り次ぎさせていただきます。最近では色んな形でのお葬儀がとまっています。家族葬が流行り、みんなで見送るということができなくなってきましたが、それでも家族で大事な方をゆつくりと偲ばせていただけることはそれで良いものとも思います。反対に直葬というただ火葬だけを行う形式もあります。規模を縮小することはあっても、内容を簡略化すべきではないと思います。(釋法道)



三月二十一日(祝) 十四時より
春季彼岸会 法話 四夷法顯先生
(無事に開催できることを願いつつ、ご案内申し上げます)

二月十三日(日)に予定しておりました「第三回浄覚寺仏教文化講演会」と二月十六日(水)の「浄覚寺ヨガ教室」は大阪府にまん延防止等重点措置が出されていること、また未だ感染拡大のピークが見えないということで、残念ながら中止とします。仏教文化講演会の内容は来年の同時期に延期とさせていただきます。楽しみにお待ちいただければと思います。

行事案内

